

【登場人物】

ダニー …ダニー・プレストン。独立芸術家協会の幹事。
レノ …レノックス・サンダースン。独立協会の理事、芸術家。
デイヴィッド …デイヴィッド・バートレット。独立協会の理事、芸術家。
ロイ …ロイ・キャンパネラ。イタリア系移民。独立協会の理事、芸術家。
マルセル …マルセル・カルネ。フランス系移民。独立協会の理事、芸術家。『噴水』の真の作者。
フィル …フィル・ストーンマン。独立協会の理事、芸術家。
ジョージア …ジョージア・ヘイル。フラッパー。独立協会の理事、芸術家。
ラリー …ローレンス・バーグ。ユダヤ系移民。独立協会の理事、パトロン。
ルイズ …ルイズ・バーグ。夫と共に芸術家のパトロンをしている。
キャサリン …キャサリン・フライヤー。独立協会の理事、評論家。
メアリー …メアリー・プレストン。メイド。ダニーの妹だが、事情があり身分を隠している。

【上演に対する諸注意】

当然ながら、すべてのト書きは無視されなくてはならない。

台詞の途中に／の記号がある場合、その位置で呼吸を切らない。

☆の記号がある場合、次の台詞がその位置から発語される。

△、▲の記号がある場合、その会話は同時に発語される。

ト書きに「沈黙」とある場合、思考は動いている。「間」とある場合、思考は止まっている。

本作品の著作権及び上演権は著者である南慎介に帰属する。

【序】

1921年、ニューヨーク独立芸術家協会のビル。とある会議室。

舞台中央には大きな会議机。入り口の近くに電話台と電話がある。対角線に扇風機。

逆側の窓の前にはラジオがある。

舞台上にはダニー、レノ、デイヴィッド、フィル、ロイ、ジョージア、キャサリン、ラリー、ルイズ、マルセル。10人はクラシックな、しかしくたびれた机を囲み喧々諤々の議論を交わしている

デイヴィッド 静粛に。静粛に

レノ 時間だ。議論は終りだ

フィル 待ってください。まだ終わっていません

デイヴィッド 皆様、意見の表明を。ミスター・バーグ

ラリー 賛成

ロイ 賛成

レノ 賛成

マルセル 放棄

沈黙。

デイヴィッド ミセス・フライヤー？…意見の表明を。…キャサリン！

キャサリン 私は…、…私は……私は……

場面転換。キャサリンのセリフ中で全員が去る。ダニーだけは去りきらず、電話の前に立つ。

キャサリンは別の時系列にいる。

キャサリン 私ははっきり申し上げます。私は彼ら彼女らと同じ時間にはおりません。この場でなにが起こり、そしてどうなるか全て知っております。いわばズルをして、この後あたかもこの場にいたかのように振舞います。それはなぜか？ひと押しに皆さまに、この場に立ち会っていただきたいからです。私が、ここにいて受けた衝撃を。私の稚拙な文章に出来るかぎりお伝えしたい。

そうです。この時私は現にこの場において、極めてアメリカ的な、しかしのちに……振り返るたびに忘れ得ない議論の、いえ、ある男によってそれすら作り変えられた、言葉の芸術の中におりました。それは今となっても、まるで日中に強い日差しを浴び、夜も更けてベッドに横たわった時にふっと、うなじに手を当てるとまだそこに太陽があるような、鮮烈な熱を持って私に語りかけるのです。

第1次世界大戦による空前の好景気が街を包み、一方で禁酒法で極端な節制が進み、ルイ・アームストロングがラジオの普及とともにスターとなり、ジャズエイジとも呼ばれた、光りあふれる分間も深くなったこの時代。1921年、7月21日、ニューヨーク市ブルックリン、ダウントウンにあるオフィスビルの一室にて。ある凡庸な画家が電話をとった画から始まります

場面転換。キャサリンは去る。

【1】

ダニーが電話を取る。電話の相手は独立芸術家協会の理事長。観客には理事長の声は聞こえない。

ダニー はい。ダニー・プレストン。（私だ、例の件どうなった？）はい、9人集まりました。（9人か）はい、13人中9人です。説得力は担保できるのではと。（例の件、確実に頼んだぞ）はい。わかっています。（全ての権利は君に譲渡してある）はい、全ての「責任」は私に、はい（頼んだぞ）それで、理事長はおいでにならないので？（馬鹿なことを、説明しただろう、私が行ったらまとまるものもまとまらなくなる）かしこまりました。必ず。リチャード・マットの『噴水』の展示を拒否します。（君、なにを言ってるんだね、電話交換手が聞いたら）それでは、失礼します。

ダニーは受話器を置く。ため息。新聞を持って彼のメイド、メアリーが入ってくる。机の上には1冊のファイル。

メアリー 旦那様、お呼びでしょうか

ダニー メアリー、今日はお客様がくる。お茶の準備を

メアリー かしこまりました。冷たいものと温かいものどちらがよろしいでしょうか

ダニー この暑さだ。冷たいほうがいいたろう

メアリー かしこまりました

ダニー ……ああ、ちょっと

メアリー はい

ダニー 冷たいものはなにがある

メアリー アイ스티ー、グレープフルーツジュース、ミルクがございます

ダニー 冷たいコーヒーは

メアリー あいにく切らしております

ダニー 買ってきてくれ

メアリー かしこまりました

ダニー ああ、それと

メアリー はい

ダニー （扇風機を指差して）これもうちょっと涼しくならないのか

メアリー そう申しましても、この陽気です

ダニー そうだな。無理なことを言った

メアリー それでは

ダニー ちょっと

メアリー なんでしょう、旦那様

ダニー ……この仕事が終わったら、少しまとまった休みを取るつもりなんだ。幹事の任期ももうすぐ切れるし、それに最近働きづめで。少し疲れた。だから…その、ロング・アイランドに行こうと思ってる

メアリー 大変結構ではないかと

ダニー お前も一緒にどうだ

メアリー 大変ありがたい申し出ですが☆私は

ダニー ずいぶん前に君と行った。もうどれくらいになるかな。素朴で美しいビーチ。夜になると対岸に光る緑の灯り

メアリー はっきりとは覚えていません

ダニー フルーツジュース、集う紳士淑女、新緑に満ちた街路樹、白線が眩しいテニスコート

メアリー もう、忘れました。買い物に行ってきます

ダニー メアリー

メアリー ……

メアリーが去る。ダニーは新聞を開く。

ダニー （「禁酒派、フランスでも酒場を破壊」の記事を見て、小声で）うわ。フランス、ヤバいな

ややあって、フィルが入ってくる。中年の貴婦人。だが、筋骨は隆々としている。

フィルはやけに大荷物である。

フィル ダニー

ダニー ストーンマン夫人。フィル。久しぶりだ。お元気でしたか

フィル もちろん。私が元気でないはずがありますか。ドイツ兵だって私には傷一つつけられなかったんですから

ダニー またヨーロッパへ？

フィル ええ

ダニー お忙しいことだ

フィル とんでもない。先の大戦で亡くなった方々の慰霊のために絵を描くのが、私のライフワークですから

ダニー あなたがヨーロッパへ渡ったって聞いて、また戦争をしに行ったんだって噂が絶えませんでしたよ

フィル やめてください

ダニー きっとまたドイツ野郎に銃を突きつけるんだって

フィル 私は看護婦でしたのよ、銃だなんてそんな

ダニー 承知しております。…それで、今回はどちらまで

フィル フランスまで

ダニー …（新聞に目を落としながら）フランス。はあ

フィル 向こうの方にそれはそれは大変良くしていただいて

ダニー なるほど。（荷物を見て）しかし、画材からなにから持って行っての船旅は大変でしょう

フィル いえいえ、でも大荷物は慣れているものですから

ダニー （大荷物の中に木の棒が突き出ているのを確認し）大荷物

フィル 今日もこんなに。お恥ずかしい（笑って）

ダニー あー、あの一、夫人。大変失礼ですが、なにをしにフランスへ？

フィル いえ、ですから絵を描きに

ダニー あの一（新聞を横目に見ながら）まさかその中身は、まさかだったりしませんか？

フィル まさか、まさかなんてはずはないじゃないですか。っていうか、大体斧じゃなくてまさかかって今時いいませんよ、まさかかって。あれ重いですし、私の華奢な体じゃ、その

ダニー あー、そうですね、これは失礼。いま新聞の記事でフランスの酒場が突然、

フィル （真顔になって）まさかかって壊してなんかいませんから

ダニー はい？

フィル (表情を緩めて) あ、いえいえ。なんか帰りの船でそんな話を聞きまして。物騒ですね。まさかりで酒場壊すだなんて。だいたい、禁酒法はアメリカの法律ですよ。確かに飲酒は野蛮な行為です。でもね、それぞれの国には文化がありますから。それをヨーロッパにまで持ち込んで、そんな、ねえ

ダニー はあ

フィル やってませんから。全然、まさかりで壊していませんから。バーを、まさかりで

ダニー あの、ちょっとその中身を(荷物を漁ろうとして)

フィル (ダニーを遮って) やめてください。入ってませんから。まさかり入ってませんから

ダニー あの、実はですね。このビルの向こうに隠れバーがあるって

フィル なくなりました

ダニー はい？

フィル なくなりましたよ、昨日、綺麗さっぱり

一瞬の沈黙。

ダニー ……一番手応えがいいのはなんのボトルですか？

フィル バーボンのボトルと、バーの看板が一番手応えがあり…ませんから

ダニー 絶対やってますよね

フィル してませんから。バーをまさかりで壊したり絶対してませんから

扉を開けて、デイヴィッドとキャサリンが入ってくる。デイヴィッドはアメリカのクォーターバックを思わせる、爽やかでタフな男。キャサリンはやや神経質そうで、ひときわ前衛的な服装。

デイヴィッド こんにちは、みなさん

キャサリン 御機嫌よう

ダニー デイヴィッド、キャサリン。良く来てくれました。お忙しいところ申し訳ない

デイヴィッド 君の方が忙しいはずだよ

ダニー そんなことは

キャサリン 久しぶり、ダニー

ダニー 久しぶりです。去年の総会以来ですね

デイヴィッド いやしかし蒸すね。まるで蒸し風呂だ

キャサリン 雨が降りましたからね

デイヴィッド 今年一番の暑さだそう。なにもこんな日にやらなくても

キャサリン 展示の順番の話でしたっけ

ダニー ああ、理事長が今日どうしても

デイヴィッド (扇風機にかじりつきながら) これもうちょっと強くならんものかね

ダニー すまないね。それが限界で

デイヴィッド こんな日はビールでも飲みたいね。…こう冷えたビールをキューツとあおって、炭酸がふあーっと、こう上がってくる。一緒に涼しさも。たまらないね、もう一本だ。栓抜きに押し出された王冠がすかーんと

ダニー デイヴィッド、あの

フィルが荷物からまさかりを取り出して、机に振り下ろす。

デイヴィッド&ダニー (悲鳴)

フィル 禁酒法のお、このご時世にい。しかも敵国ドイツの飲み物であるビールとは、肝が据わってるじゃないのお

デイヴィッド なんで？なんでまさかりなの？

キャサリン ちょっと、フィル

フィル 酒はあ禁止い

ダニー 違う。違うんだ。いまデイヴィッドはビールなんて言ってない
フィル ああん？
ダニー デイヴィッドはそう、プールって言ったんだ。なあ、
デイヴィッド そう。こんな日は水泳に限るな、クロール、バタフライ
フィル 本当に？
デイヴィッド 本当。本当だって
フィル じゃあ、いいですけど
ダニー お前、フィルの前で余計なこと言うなよ
デイヴィッド なんなんだよあいつ
ダニー フィル・ストーンマン。(小声で) 先の大戦の従軍者で、熱心な禁酒法の信奉者
デイヴィッド 斧を持った芸術家がどこにいるんだよ
ダニー 実際いるんだからしょうがないだろう
フィル あと…(態度をころっと変えて)こちら、まさかりでございます
デイヴィッド まさかり。いいねその、まさかり

扉をあけてロイが入ってくる。

ロイ 暑いなあ。メアリー、冷たい水を一杯
ダニー いまメアリーは買い物に行ってるよ
ロイ なんだよ。帰ってきたら頼んでくれ
ダニー わかった

ロイはすぐ椅子に座るが、そわそわして落ち着かない。

ロイ なあ、どうして今日なんだ。日が悪いよ
キャサリン それさっき私たちも言ったところ
ロイ それにひどく暑い。ウェイト・ホワイトのストレートみたいな温度だ
キャサリン 誰？
ロイ (肩をすくめて) ヤンキースのピッチャーじゃないか。そんなことも知らないのか？
キャサリン あいにくね
ロイ 全く会議なんかする日和じゃない
ダニー すまんね、今日どうしても決めなくちゃいけなくて
ロイ 予感がするんだよ。今日は早く帰らなくちゃいけないんじゃないかな
キャサリン 予感？
ロイ 今日は何の日か知らないの？
キャサリン 全く
ロイ 困ったもんだねえ

ラリーとルイズが入ってくる。ラリーはパトロンらしく瀟洒な身なりの紳士。
ルイズはその妻。ゆるやかで品のいい服に身を包んでいる。

ラリー みなさん、御機嫌よう
ルイズ ご無沙汰しておりますわ
ダニー バーグさん
デイヴィッド (ダニーをおしのけて) わざわざありがとうございます
ラリー いえいえ、私も独立芸術家協会の一員だ。よろこんで馳せ参じますよ
フィル ルイズさんもお元気そうで
ルイズ ありがとうございますストーンマンさん。とっても元気よ
フィル ご病氣されたと聞いたので

ルイズ すこし療養をしていたのだけど、いまはとてもいいの
ラリー 今日は妻も同席しても構わないかね。もちろん、口を挟むようなことは
デイヴィッド もちろんです。おかけください
ルイズ ごめんなさい
フィル どうぞ、こちらに
ラリー すまないね
デイヴィッド いいえ。ニューヨーク中の芸術家があなたの助けに感謝しています。絵を買ってくださるのも
もちろんですけど、あなたのサロンに行けばどんな深夜でも一流のチェスの差し手と、素晴らしいサンドイッチ
に出会えるとか
ラリー パトロンの重要な仕事だ
デイヴィッド ローレンス・バーグさんが私たちの一員であるということが、どれだけ私たちの力になるか
ロイ 調子がいいね
デイヴィッド 愛想がいいんだよ
ラリー マルセルはまだかね？

突然のクラクション、からの轟音。バーレスク調の音楽が流れ出す。
ジョージアが現れ、ストリップまがいに踊り出し、唄う。歌が終わり、満場の拍手。

ジョージア センキュー！センキュー！バイバーイ、バイバーイ
フィル なんなのこれ
ジョージア あれ？私のファンの楽団のみなさん。どうしても私について来たいって言うから
ルイズ いまの生バンドだったの？
ジョージア もちろん、そうじゃなかったらあたし唄わない
デイヴィッド お前絶対芸術家じゃないだろ
ロイ 何言ってるんだ。ジョージア・ヘイルを知らんのかね
デイヴィッド 知らん
ラリー ここらへんじゃ一番の彫刻家だ
デイヴィッド 彫刻家？！嘘でしょう
ジョージア あたしの人生は芸術よ、ダーリン（デイヴィッドにもたれかかる）
デイヴィッド さわんなもう。わかった。わかったから
キャサリン ジョージア
ジョージア （キャサリンと抱擁して）キャサリン、こんにちは
キャサリン ちょっと派手すぎない
ジョージア そう？
キャサリン 今日の格好も
ジョージア そう、清楚な感じ出てない？
キャサリン 悪いけど、全然
ロイ 昨日のパーティーもさぞご乱心だったんだろう
ジョージア 私の生涯のテーマは解放なの
フィル このフラッパーが
ジョージア あら、有難う
フィル 淑女の慎みはどこへ行ったんでしょうね
ジョージア 時代は変えられないわよ、おばさん
フィル おばさん！？
ダニー あの、それくらいに、ですね

マルセルが入ってくる。小柄で目立たない、眼力の強い男。

ルイズ マルセル

マルセル こんにちは

デイヴィッド こんにちは。先日はどうも

マルセル こんにちは、デイヴィッド

ラリー マルセル、変わりはないかい？

マルセル はい、変わりなく

ラリー 先日、腕のいい写真家と出会ったんだ。ええと、名前はなんだったかな。そう、アルフレッド、ええと、名前が、

ルイーズ スティーグリッツ

ラリー そうだ。アルフレッド・スティーグリッツ（*1）。彼に君の作品を是非撮らせた。今度アトリエで紹介しよう

マルセル ありがとうございます。スティーグリッツは僕も知っていますよ

ラリー そうなのか。面識は？

マルセル 全く

ラリー それはよかった。楽しみにしていたまえ

マルセル はい

ラリー 君とチェスを指したいって人がたくさんいるんだ

マルセル それはよかった。私はどうもお話よりそちらの方が得意でして

ダニー よくお越しくございました、カルネさん

マルセル こんにちは

ロイ あれ、誰？

キャサリン あんた知らないの？アーモリーショー（*2）のヒーロー

ロイ は？

キャサリン 『階段を上る裸体』の

ロイ え？あの絵の？

ジョージア え？マジで？あたし超ファンなんですけど。でもなんか根暗そう

デイヴィッド あれだよ、アーモリーショーの一発屋

ロイ 口が悪いね

デイヴィッド 一応、ナポレオンとサラ・ベルナールに次ぐニューヨークで最も有名なフランス人だ。大切に扱ってくれよ

ロイ サラ・ベルナール？

ジョージア 2番目も知らないの？舞台女優よ

ロイ いけ好かない感じだ

デイヴィッド そう言うなよ。根はいいヤツだ

ロイ 根は？

デイヴィッド 付き合えばわかるよ

キャサリン こんにちは、マルセル

マルセル こんにちは。ロンドン以来ですね

キャサリン そういえば、随分ご無沙汰していましたね

マルセル あなたの評論、拝見しました。とても公正でした

キャサリン ありがとう。それが私の仕事ですから

マルセル 誰もがそうであるといいのですが

レノが入ってくる。

レノ すまん、遅くなった

ダニー それでは、はじめましょうか

メアリーが入ってくる。

【2】

ダニー みなさまおかけください。メアリー。みなさまにお飲み物をお伺いして

メアリー かしこまりました

△

ジョージア なにがあるの？

メアリー コーヒー、紅茶、ジュースはグレープフルーツとオレンジ、コーラ、ミルクがございます

ジョージア 私、アイスティー

デイヴィッド 俺はビール…ってのは冗談で、アイスコーヒーを

フィル 温かいコーヒーを

キャサリン 私もアイスティー

メアリー かしこまりました

メアリーは引き続き、全員の注文を聞いていく。

▲

レノ (ロイに) お前の作品、1000ドルで売れたらしいじゃないか

ロイ 耳が早いな

レノ セザンヌ調で調子がよかった

ロイ あれは習作のつもりだったんだ。たまたま欲しいってコレクターがいてな

レノ なんにせよ金になった

ロイ お前は、描けてるのか

レノ (首をすくめて) まあな

ロイ まあ、天使を待てよ

デイヴィッド でもこいつのあの絵も負けてないぞ

レノ やめるよ

デイヴィッド いつだったか、あのルノワールを意識した絵、5000ドルの値がついた

メアリー お飲み物は？

ロイ そうだったな

レノ もう5年も前の話だ

ロイ その金どこ行ったんだよ

レノ とっくに消えたよ

デイヴィッド さぞ贅沢にしたんだろうよ

△

レノ からかうなよ

ロイ なに買ったの？

レノ 生活費

ロイ 本当に？

▲

ジョージア ラリー、あの研究は進んでるの？

ラリー 研究？

ジョージア いつか話してくれた、あれ

ラリー (喜んで) ああ、

ルイーズ けしかけないでください。あれは研究なんてもんじゃないんですから

ラリー そんなこと言うな。確かにあれは研究じゃないし、作品でもない。でも非常に重要なことなんだ
デイヴィッド バーグさん。なにか始められたんですか
ルイズ やめてください。長くなるから
ラリー よくぞ聞いてくれたね。実はね、ウィリアム・シェイクスピアが複数の人間によるペンネームだったと知っているかね？
デイヴィッド いえ。全く
ラリー そうなんだよ。全作品を検証すると不自然なところがたくさんある。まずシェイクスピアは署名が4つもあったって知ってるかい？さらに、彼の遺言書には戯曲他あらゆる作品に一言も触れられていないんだ。さらに、方言にも不自然な点がある。これはね、つなぎ合わせると一つのある重要なメッセージになる
ジョージア 重要なメッセージってなに？
ラリー …それを今、鋭意調査中というわけだよ
デイヴィッド 実に興味深いですね
ルイズ やめてください。オカルトみたいなものなんですから
ラリー オカルトとはなんだね
ルイズ 純粋な金持ちの道楽なんです

メアリーが注文を取り終わったころをみて、ダニーが声をかける。

ダニー みなさまよろしいかな？それでは…よくお越しくございました。本日お集まりいただいたのは他でもありません
ロイ 展示の順番を決めるんだらう。それなら早くしよう
ダニー いいえ。本日は、展示の順番を決めるために集まっていたわけではありません。ある重要な、しかも早急に話し合わねばならないことについて、皆様のご意見をお伺いしたく、お集まりいただきました
デイヴィッド 話し合わねばならないこととは？
ダニー (頷いて) 我が独立芸術家協会主催の展覧会が来月に迫っております。先日2次締切を終え、全ての作品の受理が行われたわけですが、その作品の中に問題が
ラリー 問題？どういうことだね
ダニー 写真がございます。(ファイルから取り出し)こちらがリチャード・マットなる人物によって出品された『噴水』なる作品です

それぞれが写真を見つめ、手に取り、写真を取り囲む。

キャサリン これは、なんですか
デイヴィッド (指差して) 便器だ。男性用の便器だよ
ロイ (ジェスチャーで) こうなってるのをこう、横にして
ジョージア わお。刺激的
フィル なんて品のない。こんなものを作品ですって
ラリー まあ、そうおっしゃらずに
レノ これを、なんて言うんだっけ？
ダニー 『噴水』だ
レノ 『噴水』
ダニー こちらの作品が提出されたことは非常に憂慮されています
レノ 誰に？主語をはっきりしろ
ダニー 理事会に
レノ 理事会とは俺たちのことだらう？今俺は初めてこれを見た。憂慮もなにもない
ダニー 理事長に、だ
レノ 言葉は正確にしておらおう

ダニー …そうしましょう。さて、ここまで話せばもうお分かりでしょう。本日みなさまにお集まりいただいたのは、これを、このリチャード・マット氏の『噴水』を我々の展覧会に出展してもいいものか、それを問うためです

ざわめく会議室。

レノ 是も非もない。展覧会の原則を忘れたのか

ダニー 無審査、無賞

レノ そうだ。審査をせず、賞も出さない。それが我々のルールのはずだ。理事長はその大前提を侵している。

問いただすのは幹事のお前の仕事なんじゃないのか

ダニー ごもつとも。しかし、君が言ったのはあくまで原則だ。実際には出展にあたって細かいルールがある。読み上げようか。ひとつ、著しく公序良俗をおかすものであってはならない。ふたつ、危険を伴うものであってはならない

レノ 全く、話にならない。それはあくまで建前だろう。独立芸術家協会の理念を忘れたのか？お前も、理事長も

ダニー そういう話をしてるんじゃない

ラリー 今、世の中に芸術として受け入れがたいものも、はるか未来の芸術たり得る。あらゆるものを芸術の裾野に取り込み、美術館や権威に侵されない発表の場所となる

レノ その通りです。お前がやろうとしてることは審査だ

ダニー 違う。おれは前提をはっきりしろと言ってる

レノ それを審査だと言ってるんだ。些細なルールに紛れて本質を見失っている

ダニー それでは、ここにある男がいたとしよう。彼は今まで一度も出展をしたことがない。いわば素人だ。彼が作品を展示したいと申し出た。君は当然それを受け入れるべきと

レノ もちろんだ

ダニー 彼は毒ガスがまだ詰まっているボンベを展示したいと言ってきた。中にはベルギー戦線で5000人のイギリス軍を数分のうちに殺した塩素ガスがパンパンに充填されている。題名は「人間の愚かさ」。さて、我々は展示を許可するのかね？

レノ 例が極端すぎる

ダニー 君の言った通りだ。些細なルールは無視し、原則のみを尊重した

レノ それでも、作品だとするなら展示するべきだ

ダニー ではその責任は誰が？

レノ 当然我々が

ロイ 巻き込まんでくれよ

ダニー もしガスが漏れ、人が死んだとして、その責任を我々がどうやってとるんだ？

レノ 便器で人は死なない

ダニー 話をそらすな。俺は、原則とルールの話をしている

レノ 俺はこの作品についての話をしているんだ

ダニー さて、親愛なるレノックス・サンダーズさんがダブル・スタンダードを用いていたのは自明として、私はなにも、『噴水』の展示を取り下げようというわけではありません。この作品には少なくとも議論の余地がある。そうは思いませんか？……そもそもこれは芸術ですか？

沈黙。

ロイ 意見を言うのはかまわないが、それでどうなるんだね？

ダニー どう、とは？

ロイ 私たちがなんか言ってそれがどうなるというんだね。それを聞いて、どうせ君と理事長が勝手に決めるだろう。理事会の意見もしっかりと受け止めて、というご丁寧なアナウンス付きで。それなら私は興味がない。帰らせてもらいたいね

ダニー いいえ。そうではありません。理事長は、この理事会に決定権を譲渡するとおっしゃっておいりました

ロイ つまり、この会議で展示するか否かを決めて欲しいと

ダニー その通りです

ロイ 本当に結論が出るのかね。無駄話をごめんだよ

ダニー お約束します。この会議で結論を出しましょう

レノ だいたい、この場に理事長がいないというのが気に食わん。我々と議論したいならまず顔を出すべきだ

ダニー 私が理事長の権限を一任されていると思って結構

レノ そういう問題じゃない。お前、権力の犬になってやしないだろうな

扉の裏側にメアリーが入ってくる。彼女の言葉はダニーにだけ聞こえている。

メアリー いいえ、あなたはいつだってそう

ダニー 違う

メアリー 長いものにまかれてばかり。今もそうなんじゃないの

ダニー 違う

メアリーが去る。シーン戻って。

ラリー まあ、いいだろう。どうせあの男がいたところで日和見ばかりで話もまともに進まない。このメンバーで議論したほうがよほど建設的だ

レノ しかし

ダニー ご理解いただきありがとうございます

ラリー 君の思想を理解したわけではないよ

ダニー ……結構です。みなさま、ご納得いただけましたか？……それでは、ここから議長をデイヴィッド・バートレットに譲りたいと思います

デイヴィッド 私に？

ダニー 私はある意見を持ってこの場に立っております。ご想像の通り、この『噴水』についてあまり良いイメージは持っていない。その私が議長を務めるのは適任ではないでしょう。この場で最も公平、公正な男に任せるべきです

デイヴィッドということは、私は投票権を持たないということに？

ダニー いえ。あなたは公正な人だ。投票権は問題はないでしょう。みんなも信任してくれるはずですよ。…皆さま、この場の議長をデイヴィッドに任せることに反対の方は？

誰も手が上がらない。

ダニー それでは、デイヴィッド。お願いします

メアリーが入ってきて、それぞれに飲み物を渡していく。飲み物を置いて、メアリーは去る。

デイヴィッド それでは…議長に任命されましたデイヴィッド・バートレットです。まずは議決についてだが、基本過半数で決定ということでもいいでしょうか

フィル 賛成します

ロイ 多数決じゃないのか

キャサリン それじゃ一発で決まっちゃうでしょう

ロイ それでいいじゃないか

デイヴィッド 活発な意見の交換にはつながらないな

ロイ 長くなるんじゃないか、それは

ラリー なんだ、なんか予定でもあるのか？

ロイ …いえ、そんなことは、いえ

デイヴィッド もちろん、話し合いが充分に進み、全会一致となれば全く問題はない。だが、どうしてもという場合、多数決を原則としよう。みな、まずは名前と一緒に自分の意見を表明してくれ…まずは私から

キャサリンが立ち上がる。以降、キャサリンは別の時間軸にいる。

キャサリン 私は、彼が人を見るとき、まるで絵のように見ていたことを思い出す。じっくり見て、しかし少し距離をとって、沈黙を保ったまま。きっと、彼なら私たち一人ひとりを絵に例えていたに違いないとすら思う

デイヴィッド デイヴィッド・バートレット。画家です。私は今のところ、反対に。

キャサリン デイヴィッド。例えるならポール・セザンヌの『カード遊びをする人々』

フィルは立ち上がる。

フィル フィル・ストーンマン。画家です。私はこの作品の展示に断固反対いたします

キャサリン ストーンマン夫人。フィル。例えるならウジェーヌ・ドラクロワの『民衆を導く自由の女神』

フィルは座り、ジョージアが席を立つ。

ジョージア ジョージア・ヘイル。彫刻家。この作品、すっごくクールだと思う。賛成よ

キャサリン ジョージア。例えるなら、アンリ・マティスの『生きる喜び』。

ジョージアが座る。キャサリンが立つ。

キャサリン (元のシーンに戻り) キャサリン・フライヤー。美術評論家です。私は意見を保留させていただきます…(再び違う時間軸へ戻り) 彼なら、私をなにに例えてくれるだろう

キャサリンが座る。

レノックス レノックス・サンダースン。画家。普段は弁護士をしている。賛成

キャサリン レノ。例えるなら、アルフレッド・シスレーの『ポール・マルリーの洪水』

マルセル マルセル・カルネ。私は、意見を保留

キャサリン マルセル。私が例えるならマーク・ロスコの『深い赤の中の黒』

ルイーズ …あ、私は夫について来ただけなので

ラリー 失礼。私はローレンス・バーグだ。コレクター、君たちのパトロンだ。ラリーと呼んでくれ。私は意見を保留としよう

キャサリン ラリー。例えるならピエト・モンドリアンの『コンポジション』

ラリー こちらは妻のルイーズ

ルイーズ ルイーズ・バーグです

キャサリン ルイーズ。例えるならジョルジュ・スーラの『ポール・アン・ベッサンの外港』

ロイ ロイ・キャンパネラ。版画家。賛成だ、賛成

キャサリン ロイ。ギュスタヴ・クールベの『石割人夫』

ダニー ダニー・プレストン。画家です。私は『噴水』の展示に反対です

キャサリン ダニー。サルバトーレ・ダリの『絶対になにも探していないアンブルダンの薬剤師』。

デイヴィッド …それでは反対は、フィル、ダニー、私の3人。賛成がレノ、ロイ、ジョージアの3人。保留がキャサリン、マルセル、ラリーの3人ということでもいいでしょうか

各々が頷く。

レノ なるほど。3人の保留のやつのうち2人を味方につければ、こっちの勝ってことだな

ジョージア 裏切りなしならね
デイヴィッド 議論を開始しましょう。ご意見ある方

キャサリン まだです。まだ私たちはこの風景を意味ある多重視点、そう、まるでパブロ・ピカソのキュビズム（*3）のように見るにはまだ視点が足りません。もう一つ、別の風景をお見せします

【3】

メアリーが入ってくる。メアリーは粗末な衣服。時間軸は2年ほど前。

キャサリン メアリー・プレストン。例えるなら、ジョルジョ・デ・キリコの『通りの神秘と憂鬱』。2年前…
1919年

ダニーが立ち上がる。

ダニー メアリー

間。

ダニー メアリー

メアリー あなたは笑うでしょうね

ダニー 笑わないさ

メアリー それとも憐れむ？

ダニー 憐れんだりするもんか。さあ、中に入りなさい。朝になったら、列車に乗って二人で一度アトランタに戻る。いや、それも性急だな。しばらくここにいるといい。ゆっくり休むんだ

メアリー なにしてたか聞かないの

ダニー 興味がない

メアリー 3年よ

ダニー 人生の中じゃほんの短い時間だ。…さあ、入りなさい

メアリー 嫌

ダニー 訪ねてきたんだろう

メアリー 行く場所がなかったから

ダニー じゃあ、入りなさい

メアリー 嫌

ダニー 俺を困らせるためにきたわけじゃない。そうだろう

メアリー 私ね。あの街が嫌いだった。古臭い伝統と格式で自分たち自身を縛っていた。だから、ニューヨークに来たの。ここなら、新しい価値観がきっとある、そう思った

ダニー だけど、君の居場所はここにはなかった。そうだと思う、

メアリー アトランタにもニューヨークにも私の居場所はない

ダニー そんなことはない。君はいい意味でとても…古風なんだ。こんな新しい街は似合わない、それだけだよ

メアリー 生きるために何でもやったわ

ダニー メアリー、帰ろう。父さんも母さんも心配してる

メアリー あそこに帰るくらいなら死ぬわ

ダニー そんなこと言うな

メアリー だってあの時あなた何もしてくれなかったじゃない

間。

メアリー あの時私がどんな気持ちだったか

ダニー わかってるよ

メアリー なんにもわかってなんかいないくせに。私が、あの家にどんな気持ちでいたか

ダニー しょうがなかった

メアリー そうでしょうね。あなたが「父さん」に逆らうなんてことはできないに決まってるからね

ダニー 一家には方針が必要なんだ。俺がそれを乱すわけにはいかなかった

メアリー だから、私が居場所を失くしていくのをただ見ていた

ダニー しょうがなかった。それに後悔してるから君を探していた。ニューヨークに来たのもそのためだし……
嘘じゃない

メアリー 去ろうとする。

ダニー どこに行くんだ

メアリー どこへも、行く場所なんかない

ダニー …うちで働かないか。ここで

メアリー ここで

ダニー そうしたらどこへも行く必要もない。帰る必要も

メアリー 私はもう私じゃないのよ。あなたの知ってる、私じゃない

ダニーは衝動的に抱きしめたい衝動に駆られるが、我慢して。

ダニー ここで働くんだ

メアリー 私、あなたを困らせることしかしないわよ

ダニー かまうもんか

メアリー 苦しめることしかしない

ダニー そんなこと関係あるか。お前は、俺の妹だ

沈黙。

メアリー 荷物を取ってくる

メアリーが去る。

キャサリン ありとあらゆる物事は手遅れです。核心まで半歩遅い。あるいは私だけでしょうか、はっきりと背中
中は見えているのに、いつも手は届かない。でも、私は何度だってやり直せるのです。ここから。（メアリーが
出て行った扉の方を見て）そうだと思います。再び1921年。もう私がこの時間に手を加えることはないで
しょう。私もごく凡庸な、この物語の登場人物となります

場面転換。

【4】

再び会議室に戻って。

ダニー 私はみなさんに聞きたい。これは、リチャード・マットの『噴水』は、芸術なのか？

レノ だからそれを問うのは俺たちじゃないと言ってるだろう

ダニー そもそも、芸術とはなんだ？

フィル それはつまり美ですね

ダニー 芸術イコール美？そこをはっきりしておきたい

フィル 美を生むもの…美を内側に含むもの

ダニー ありがとうフィル、素晴らしい答えを聞いた。「美を生むもの」。仮に芸術を「美を生むもの」だと仮定しよう。もしここに全く美を生まないものがあったとしよう、それは芸術なのか？

レノ だから、お前のその発言が審査だと言ってる

ダニー 違うんだよレノ。審査、というのは美というものが作品の中に確かに存在する前提で、その量を測るものだ。俺が今言ってるのは、美がゼロか1かの話をしてる

デイヴィッド だから『噴水』が芸術か？と聞いたわけだな

ダニー ああ、もしこれが芸術でなければ、私たちが展示するのはそもそもおかしいという話になる

レノ 屁理屈だ

ダニー もちろんそれは承知してる。しかし、あまりにこれは…私たちが思う美から離れすぎている

短い沈黙。

ラリー ダニー、先ほどの理念の話の思い出してほしい

ダニー もちろん承知しています。しかし、これは本当に美ですか？

フィル 私から言わせていただければ不道德です。これを見て、人はなにを想像すると思いますか

ロイ もちろん、その前で立ち小便をする男の姿だろうな。ズボンのファスナーを開き、一物を取り出し、放物線を描くように放尿したものが流れていく

フィル 挙げ句の果てに『噴水』？

ロイ 流れ出したおしっこはやがて噴水のように吹き出すだろう

フィル 不道德ですわ。汚らわしい、ダウンタウンの路地裏の風景です。こんなものを美と認められません

ジョージア 真面目さを問うのは違うと思うなあ

フィル 真面目さ？

ジョージア あなたはいまこれが真面目な美術作品かどうかを問題にしてるんでしょ。それは違うんじゃないかな

フィル なにが違うと言うんですか

ジョージア きっと私の作品も不道德だって言われちゃうと思うな

フィル あなたの作品？

キャサリン 最近どんな作品を出したんですっけ？

ジョージア ふふ。盛った犬のように後ろから繋がってる女と☆オ・ト…

フィル 聞きたくもありません。不道德です。冒瀆的です

ジョージア あなたが不道德だと思うならそれでもいい。私はあなたの頭の中にまで介入しないし、私の作品を美しくないって言う権利も否定しない。だけど、それは私の作品の中に全く美がないって言ってるわけじゃないでしょう

キャサリン もう少し噛み砕いて言ってくれませんか

ジョージア だから、もしフィルが私の作品を「美しくない」って言ったとしても、それは「美しさが少ない」ってことなの。「美しさが少ない」つまり「作品じゃない」とは言わないはずよ。美の尺度は人それぞれだけど、確かに私たちの中にはあると思うの。それを否定することは誰もできない

ラリー なるほど

ダニー では、美とはなんでしょう？ どうしたら美がたくさんある、少ししかない、あるいは全くないと言えるのでしょうか。その尺度はなんでしょう？

ロイ そんなものが簡単にわかったら、俺たちは全員失業してる

ダニー そうです。美は証明できません

レノ そうだ、お前の書いている絵も美だとは証明できない

ダニー その通りです。私たちの作品も「美を生んでいる」と証明せざるを得なくなった

レノ 全部だぞ

ダニー あらゆる作品について再度検討の必要があると思います

不満の声。

ロイ そんなことを始めたら時間がいくらあっても足りないぞ

ダニー やるんです。今まで私たちは無審査の意味を勘違いしていました。つまり、作品のていを取ってさえいれば「あらゆるものは芸術である」と勘違いしていました。これからは、なにが芸術であるか、つまり前提に立っているのか問いただすことが必要になった。（『噴水』の写真を叩きつけながら）この作品は、『噴水』は、私たちにそれを突きつけたんですよ。その意味がまだ、お分かりでないのか

沈黙。

ラリー そう、難しく考える必要もないのではないかな

デイヴィッド そうおっしゃいますと

ラリー なにが美か、それを考え求め、審美眼を磨くこと自体は素晴らしい。しかし、それを誰かと共有しようとするのが検閲となる可能性を否定できるかね

ダニー …完全な否定はできませんね

ラリー 私はそれ自体が、芸術家の作品創りを阻害するものだと思念している。だとしたらこう考えたらどうだろう。「これは芸術家が提出したものであるから、芸術と認めるべき」だ

ダニー なるほど

ラリー これを否定できるかね？

ダニー 今、ラリーは「芸術家が」と言いました。このリチャード・マットが「芸術家」だとどうして断定できるのでしょうか？

ラリー どうして？

ダニー 独立芸術家協会はあらゆる芸術家に開かれた場所です。芸術家と名乗るものは全てが入会でき、無審査、無賞の展覧会に出展することができる

レノ その通りだ。我らが聖域。お前は今それを侵そうとしてる

ダニー それだ、レノ。「我らが聖域」。では、このリチャード・マットは「我ら」に分類されるのか

レノ なにを馬鹿なこと言ってる

ラリー （怒って）望んだら誰でも、すぐにでも芸術家と名乗れるべきだ

ダニー 明日にでも

ラリー そう、明日にでも

ダニー そして明後日には芸術家をやめるでしょう。私たちが私たちのために作った大切な場所を汚し散らかして

レノ 難癖だ。じゃあ芸術家にライセンスでもつくるっていうのか？「はい、あなたは3年間で15枚の絵を描きました。芸術家ランクはAプラスです」？あなたは？「彫刻を5年で1回。はあ、大変残念ですが芸術家ライセンスは失効ですね」

ダニー 仮定の話はやめる

レノ お前もさっき散々仮定の話をした

フィル じゃあ芸術家とは何ですか？…あなたが今いった、芸術家はライセンスじゃないって。じゃあ、どうしてリチャード・マットが芸術家だと言えますか？

レノ こうして作品を創ってる

フィル 作品を創るから芸術家？

レノ そうだ

フィル では、職人はどうですか？時計の、職人。これは芸術？これを創っている人は芸術家？

レノ 場合によってはそうだろう

フィル 場合によっては？じゃあ、芸術家じゃない場合があるということですか

レノ 彼が作っているのは、「道具」だ。「モノ」だ。作品じゃない。まあ、そりゃ中には芸術と言っていい物もあるかもしれないが、

フィル じゃあ「モノ」と「作品」の違いは？

レノ モノは設計図の通りに複製されるものだ。無限に、同じものが作られる。コピーだ。だから作品じゃないし、彼らは芸術家じゃない

フィル じゃあ、あなたはゼロから創造したものを芸術と呼ぶ、それで間違いはありませんか

レノ ほぼ、おそらく大半がそうだ

フィル これは、そうじゃありません。大量生産のただの、便器。リチャード・マットはなにもゼロから作って
おりません。これは、あなたの意見から言えば芸術ではないということになりませんか？

レノ そうじゃない

ラリー ……ここは、事情に詳しい人に聞こうじゃないか。キャサリン

キャサリン はい

ラリー この種のもは、ヨーロッパの美術評論の中で作品と認められるかね？

キャサリン ……これは、というか彫刻も立体的な絵だと考えるとするなら、「タブロー」つまりキャンバスに
描かれたものではないものを美術とする流れは確かにあります。絵画の放棄が芸術の放棄とは言い切れません。
工業製品が芸術に含まれないとは言えない。ですので、これが作品か作品じゃないか、と問われといたら…作品
でないとは断言できないかと

一同、嘆息する。

ジョージア なんか歯切れの悪言い方ね、こうスパーっとさ、作品です、って言い切っちゃえばいいじゃない。
だってそうでしょ、他の作品と区別する必要なんかないんだから

ロイ そうだ、今こそ多数決

キャサリン そうだとしたらこんな議論にはなっていないでしょう

ロイ すぱっと解決

キャサリン 提案させてください

デイヴィッド どうぞ

キャサリン 工業製品を芸術と呼んだのは、ここにいるマルセル・カルネと本日欠席のフランシス・ピカビアで
す。彼らはこう呼びました。「レディ・メイド」と

ジョージア レディ・メイド？

キャサリン 「芸術は既に作られている」といった意味でしょうか。どうでしょう、みなさん。ここでマルセル
に『噴水』が本当に作品にふさわしいか聞いてみるというのは

デイヴィッド …マルセル、説明してもらうことはできますか？

短い沈黙。黙ったというより、空白を待っているような。

マルセル 私は「レディ・メイド」を説明する立場にありません

ルイーズ そんなことはないでしょう。この作品もあなたのものでよく似てる

ダニー なにより、あなたは「レディ・メイド」の名付けの親です。私たち「二流の芸術家」にもわかるように
説明してもらえませんか。もちろん、到底理解できないものかもしれないが

マルセル ……説明できないものなんです。説明するとすぐに逃げてしまうというか、つかめないものなん
です。少なくとも、議論する点はない

ジョージア はい？

ルイーズ お願い、もう少し話して

マルセル 私にできることは、「モノ」に対して扉を開いておくことです。なにも説明しないこと、任せること、
するに任せることです

フィル 説明しないってどういうことですか

マルセル 例えば作者がこれに「愛する男女」などという作品の意味を説明するタイトルをつけてしまって、解
釈を固定してしまうことが最もよくないことです。抽象的に本質を表現、などありとあらゆる意味で馬鹿げてい
ます

ジョージア でも、それってあなたの表現したいことなんじゃないの

マルセル 「作者」の表現したいことです。作品を見た人間の感じるものとは違う。そして、作品の可能性は作
者が意識的に表現したものよりはるかに広がっている。それを否定してしまうのです

キャサリン それは無意識に行われるべきですか？

マルセル ええ、徹底的に無意識に。意識して意味をおいたものは無意識の可能性をすべてを台無しにしてしま
う

ダニー もっとわかるように話してくれ

マルセル ですから、あなたに説明できることなどないのです。私は評価はできる。しかし、これを「レ
ディ・メイド」だとしたら、私は徹底的に一つのことをつらぬくでしょう

ダニー 一つのこととはなんだね

マルセル 沈黙です

短い沈黙。不満そうな一同。

ダニー 素晴らしい。ニューヨークでナポレオンとサラ・ベルナールに次ぐ高明なフランス人、

マルセル・カルネは沈黙を選ばれた。神の祝福あれ

ダニーは道化がかった身振りで、手を叩く。白けた一同。

ロイ (しびれを切らして) 結論がでないならそれでいいじゃないか。無審査に従って、今回は出す。それ以上
のことがあるかね

フィル できないって言ってるんでしょう

ロイ そうかね？正直私から見たら君達が駄々をこねているようにしか思えんよ。原則どおり、展示は許可。そ
れ以外にないような気がするがね。はっきり言おう、私は早く幕にしてほしいね

フィル あなた、議論を面倒くさいと思いませんか？

ロイ これ以上は時間の無駄だと言ってる

沈黙。

デイヴィッド 私も発言してもいいかな。……私が『噴水』の展示に反対する理由だが、これは破壊のみを目的
としているように思うからだ

レノ 破壊

デイヴィッド 文字どおりそう、破壊だよ。しかもとびきり、意味のない破壊だ。私は破壊自体を否定はしな
い。今ある価値観を壊していくことも芸術のひとつの役割だからだ。しかしそれは、破壊の後に新しい価値観を
もたらず場合だ。破壊だけが目的だとしたら、それは到底受け入れがたい

レノ これを受け入れることで、なんの破壊が起こるって言うんだ

デイヴィッド 第一に、美の破壊。俺たちが印象派から脈々と築き上げてきた美が崩れる。第二に、創作の破
壊。この行為を、「便器を買ってきてサインをする」というこの行為を創作行為だとしてしまったら、今までの
全ての創作の基準が壊れてしまう

ラリー だとしても何が問題かね？伝統、秩序、常識。それにこだわって今のヨーロッパはどうなった。370
0万人の屍体とフランスからルーマニアに至る焼け野原だ。芸術が、それら古いものに風穴を開けなくてはなら
ない、破壊せねばならない。それがダダイズムというものじゃないのかね？

デイヴィッド いま流行りのダダイズムの真髄が破壊にあるのは知っています。しかし、それでも…

ジョージア 時代は止められないわ。ほんの10年前だったら誰が私のこの格好を受け入れてくれたかしら。私の
考えや、嗜好、思想、あらゆるものを無視してただ私からこの服を剥いだでしょう。コルセットで私を締め付
け、地面すれすれの歩きにくい服を押し付けて家の中に閉じ込めたでしょう。戦争万歳！戦争が全てを壊してく
れたから私たちは解放された

フィル (激昂して) そんな簡単に戦争を語るもんじゃない

ジョージア (恍惚として) そうよ、私は戦争を知らない。だけど、戦争によってもたらされたものは、破壊に
よってもたらされたものと知ってる。伝統よさようなら！あらゆるものが流れていく。流れ去る者はやがてなつ
かき！（*4）…でもそれは全て流れ去った後だから言えるの。流れ去る前のそれは、ただの淀みよ

沈黙。

ダニー そうか？本当にそうなのか？俺たちは戦争を知った。あれは破壊だった。それに対して俺たちの回答はさらなる破壊なのか？手当、癒し、なんでもいい。傷ついたものを癒すことが芸術の力だとは思わないか

レノ その意見に反対はしない。しかし、あらゆる芸術家が治癒という選択肢を取らなければならないという姿勢には全力を持って反対する。それは芸術の可能性に鍵をかけることだ

ダニー その結果、さらなる破壊を呼び込んだとしても？

レノ 当然だ

ダニー あらゆるものを壊すことを芸術の権利だと言うのか

レノ それが、俺たち芸術家に与えられた特権だ

ダニー これは衝撃だ

レノ ああ、ただの衝撃だ

ダニー 歯止めが利かなくなる。もっともっと衝撃を求めることになる

レノ そうだ。行き着くところまで行ってやれ。もっと、もっと果てのない衝撃を

ダニー 際限がなくなる

レノ 俺たちの視界を極楽色で塗り固めてなにも感じなくしろ。そうしたらそれを感覚ごと吹き飛ばすようなさらなる衝撃を求めるんだ。それが天賦の才を頂いた我らの使命だ

沈黙。

ダニー （レノに、ささやくように）ずいぶんなもの言いだな。もう何年も1枚も絵を描けてないやつの発言とは思えないよ。おい、絵は描けたのかよ。その偉そうな発言に見合うような絵は描けたのか

レノ、屈辱で顔を真っ赤にして椅子に座り、鞆に顔を押し付け、うなった後沈黙する。

デイヴィッドがダニーに詰め寄ろうと、周りの人間で必死に止めると、その刹那、

マルセル いい加減にしてくれ。聞くに堪えない。もう限界だ。君たちは網膜だ。目で見えるものだけの話をしている。網膜の衝撃、そんなことには私は何の興味もわかないし、極めて不快だ。網膜の衝撃が欲しいなら、君の母親を撃ち殺して美術館にかけろ。それで題名は「愛情」。さぞ素敵な網膜の刺激になるだろう。だいたいなんだ！（一人一人を指差しながら）ルソー風、セザンヌ調、ピカソ系、もうたくさんだ。君たちは創造をしていない、創作をする気すらない。せいぜいやることと言ったら自分の絵がいくらで売れたとか、昨日のパーティーはどうだったとか。特権？それで「二流の芸術家」？君たちは実に控えめだな。君たちは、三流以下だ

呆然とする一同に向かって、一瞥をくれるとマルセルは去る。

ルイーズ 待って。マルセル

ルイーズも追って去る。

デイヴィッド 休憩をとります

ロイ おい、多数決は

デイヴィッド 無理だ

フィル （誰に語りかけるともなく）西部戦線で。塹壕の中で自分たちも血と泥にまみれて兵士に手当をした。私たちだっていつ砲弾で吹っ飛ばされるかわかったもんじゃなかった。…神様に祈るの。毎日できるだけ綺麗な下着をつけたわ。もうこれが死装束になるかもと思いながら／ある日、兵士が死にかけてた。迫撃砲で手足を吹っ飛ばされてもう死を待つばかりだった。彼は叫んだわ。「神はいない」と。「神がいるならどうしてこんなに悲惨なものを放ってくるのか」と

デイヴィッド フィル、いい加減にしてください

フィル 私は言葉をなくしてしまいました。その時、塹壕の暗がりから私よりずっと年配のひどく太った看護師が現れて言ったんです。「神は光のようなものだ」って。…光はそれ自体眩しくて直视ことはできないけど、私たち

は光に照らされた自分の影を見て、同時に理解するの。神も自分も確かに存在すると。だから、「もし神がいな
いと思ったら神を探してはダメだ。照らされている自分自身を確かめない」とって。私、美も一緒なんじゃない
かって思いましたの。美は目には見えない。だけど、私たちを通してその存在を知ることができて、だから、神
を信じることと、美を求めることは一緒なんじゃないかって

永き間。

デイヴィッド それで？

フィル ええと、その…

デイヴィッド 休憩を。再開は15分後

【5】

レノが出て行く。ややあって、ダニーも出て行く。ロイは窓から外を見ている。

ロイ 暑いなあ。本当に、たまらんね

ジョージア あんたさ、なによ本当に

ロイ なによとはなによ

ジョージア なんでそんなに早く終わらせようとするわけ

ロイ …今日が何の日かしらんのかね？

ジョージア …今日？（キャサリンに）なんかあった？

キャサリン さあ

ロイ あんたらそれでもニューヨーカーかね。大ヒントだ。いいかい、……（もったいつけて）バンビーノ。…わ
かっちゃったかな、こりゃ簡単すぎたな、どうもいいヒントがなくて（全然ピンときてないジョージアとキャサ
リンを見て）嘘、全然わかってない

キャサリン 全く

ロイ 今日なんだよ、今日なのかもしれないんだよ

デイヴィッド だから何が

ロイ ベイブ・ルース！…そう、ベイブ・ルース！……あれ？

デイヴィッド （小声で）誰？

ロイ お前今小さい声で誰って言っただろ！ベイブ・ルースだよ。わがニューヨーク・ヤンキースの希望の星。

今日55本目の本塁打を打つかもしれないんだよ

キャサリン ああ

ジョージア なんだ野球か

ロイ 野球か、とはなんだ？！55本だぞ！去年完全にバッターに専念して、54本も打ったんだ。それだけ
も前人未到大記録だというのに、あと5試合残して54本も打ってる。これがどれだけ凄いことかわかる
か？！おれは毎日スタジアムに通ってる。昨日54本目のホームランが東の空に美しい放物線を描くのをこの目
で見たんだ。今日は55本だと思っていたのに、なんで、なんで今日なんだよ

デイヴィッド 結果ならラジオつければいいだろ

ジョージア え？ラジオ

ロイ それじゃだめなんだよ。この目でみないと

ジョージア どこ？

ロイ ファンだから

デイヴィッド それ（ラジオを指差す）

ジョージア あたしこれ欲しかったの。リッチねえ

デイヴィッド 補助金がね…

ジョージア あたしこれ欲しかったの。持って帰っちゃおうかな

キャサリン 試合何時から？

ロイ 今始まったばかり

キャサリン それは無理でしょう。まだ大分かかるよ、きっと
ロイ それじゃ困るんだよ、終わらせよう今すぐ
キャサリン あたしに言われても
ロイ ああ、お腹が痛い
デイヴィッド また？
キャサリン 本当弱いね
ロイ ああ、力が入るとどうも
デイヴィッド 大丈夫？
ロイ いや、今回はなんとか
ジョージア とりあえずラジオつけるよ
ロイ おい、ちょっと待ってくれよ。結果をラジオで知ってるのもそりゃそれで

ジョージア、ラジオのスイッチを入れる。ボールを強くバットが叩く硬い音。

アナウンサー 打ったー！大きい、大きいー！入ったー！55本目、55本目！新記録となる55本目のホームランがライトスタンドに叩き込まれました。素晴らしいホームランです。ベイブ・ルース
解説 いやあ、今日スタジアムに来た人は幸運ですね。目の前でこんな素晴らしい光景を見られるなんて
アナウンサー 逆に言いましょ。昨日スタジアムで54本を見て、今日の55本を見てないなんて人は本当に不幸ですね
解説 なに言ってるんですか。そんな人いるわけじゃないじゃないですか
アナ&解説 (笑って)

ジョージアは思わず、ボリュームを下げる。アナウンサーと解説は雑談を続けている。

ロイ オウ…オウ……オオウ…

ロイは机に突っ伏す。

ジョージア あのうー、何と言うか
デイヴィッド ドンマイ
ロイ …オウウ…
キャサリン どうすんのよ、これ
デイヴィッド 知らんよ
ジョージア ああ、もう

ジョージアはラジオの周波数を変える。ちょうどいいところで、『聖者の行進』が流れてくる。

ジョージアはボリュームを上げ、チャールストンを踊り出す。ジョージアが気持ち良く踊っているのを見て、キャサリンも踊り出す。ジョージアはデイヴィッド、フィルも誘い、再び踊り出す。ラリーが踊りに加わる。最後に、デイヴィッドとラリーが落ち込んでいるロイを剥がし、踊り出す。ロイはひどくステップが下手であるが、やけくそで踊り出す。それを見て、全員が笑う。

暗転。

明転するとマルセルが舞台に一人。独立芸術家協会のビルの外。ルイズが入ってくる。

ルイズ マルセル
マルセル 私が悪いのはわかっているんです。期待をしすぎている
ルイズ 誰もが遠くを見渡せるわけじゃない
マルセル わかっています。いえ、期待などしていなかったはずです。「階段を上る裸体」(*5)がアメリカでどんな風に扱われたか考えればすぐわかるはず。奇抜で斬新だというだけで、作者の私は、まるで占い師か未開の地から着た呪術師のように扱われた。あれは、私の作品です。見せ物ではない

ルイズ あなたは傷ついていたのね

マルセル 傷ついている?!それも少し違いますね。呆れているんです。みな、目に見えるものしか見ていない。目に見えるものしかあたかも存在しないように扱っている。だけど、私が描きたいものはもっとずっと、その先にあるんです

ルイズ そうなんでしょうね

マルセル …すみません。あなたに言うことじゃない

ルイズ ううん、いいのよ

マルセル 駄目です。私はいつも甘えすぎて、あなたにも、ラリーにも

ルイズ マルセル。あなたほど空高く飛べる鳥ね。あなたほど高くから遠くまで見通せる人はない。だから、あなたはこれまでもそうだったし、この先もずっとそうだわ。孤独でしょう。私にはそれをどうすることもできない。だから、

マルセル だから

ルイズ あなたが疲れた時、止まり木はいつもと同じようにあなたを迎える。変わらず、ここにいるわ

マルセル ルイズ

ルイズ それがパトロンの喜びなの。…私と、夫はあなたを子供だと思ってる。少し手のかかる、きつといたずらっ子ね。でも私たちの想像もできない可能性を持った

マルセル ……

沈黙。

ルイズ (突然表情を変え、無邪気に) ねえ、マルセル。あれを覚えてる?あなたが好きだって教えてくれた

マルセル なんです

ルイズ パリで一緒に見たわ。えー、なんだっけ

マルセル どこで?

ルイズ あの…だめね、私どうしても名前が覚えられなくて

マルセル どこです?ルーブル?グラン・パレ? (*6)

ルイズ どこだっけな、あの、元々テニスコートだって言ってた

マルセル ジュ・ド・ポーム!ジュ・ド・ポーム国立美術館です。公園の一角にある

ルイズ そうだ。そんな名前だった。あなたがこの絵が好きだった教えてくれたわ、私とラリーに

マルセル どんな絵でしょう?印象派?

ルイズ きつとそうよ。あなたがセザンヌより好きだって言ってた

マルセル …マネ?……いや、スーラでしょう。ジョルジュ・スーラ

ルイズ そう、ジョルジュ・スーラ

マルセル 作品はなんでしょう?『アニエールの水浴び』?『グラン・ジャット島の日曜日の午後』?

ルイズ えーと、えーと、

マルセル どんな絵でしたか?覚えてるだけでも

ルイズ 港、そう遠くから見た港の風景だった

マルセル (はっと気づいて)『ポール・アン・ベッサンの外港』

ルイズ (思い出して) そうよ、

マルセル&ルイズ 『ポール・アン・ベッサンの外港』

マルセル 思い出しました。私が別の絵の前でスーラが非常に興味深いと言った時、あなたは『ポール・アン・ベッサンの外港』を指差して「私はこれが好き」と言った

記憶の奥底にある絵を、二人は見つめている。

ルイズ そう。私はあの作品が好きだったの。高台から見下ろした遠くの港

マルセル ノルマンディーの小さな漁港です

ルイズ きつと季節は夏ね。港のすぐそこまで迫った岬も、泊めてある船も輝いてる

マルセル 夏の午後ですね。白い屋根が眩しい

ルイズ 赤い建物は魚市場。本当は賑やかなはずなのに、午後だからみんなまどろんだみたいになって
マルセル ヨットが静かに水面を滑っています
ルイズ 堤防の上には人がいるわ。豆粒みたいに。だけど、あれは私よ
マルセル だとしたら隣はラリーです
ルイズ 光が溢れてる
マルセル スーラは生涯光を閉じ込めることに心血を注いでいました
ルイズ 不思議ね。行ったこともないのに私、この場所を知ってるみたい
マルセル 素晴らしい作品をみると、見た人の人生のどこかと繋がるんです。これは絶対です
ルイズ 美しかった
マルセル ええ、美しかった

間とも沈黙とも。

ルイズ 誰もがこんな風に美を分かち合えればいいのにね
マルセル ええ。しかしそんな時代はもうやってこないでしょう
ルイズ それは終わりでしょう。悲しむべきことなのかしら
マルセル 終わりは何かの始まりでもあります
ルイズ (頷いて) ……行きましょう。戻ってくれる？
マルセル ラリーに失礼をしました
ルイズ 彼ならわかってくれるわ

マルセルとルイズは去る。扉からメアリーが入ってくる。
メアリーは飲み物を片付け、黙々と机を拭いている。ダニーが入ってくる。

ダニー みんなは？
メアリー 皆さまでどこかへ
ダニー そうか。どこへ行ったんだろうな
メアリー さあ

ダニーは所在無げに窓の外やメアリーを見ている。沈黙。

ダニー 新しいのにしたのか、それ
メアリー (一瞬の沈黙。しかし手は休まない。やがて手元の台拭きのことと気づき) はい
ダニー まだ使えたのに
メアリー 古かったですから
ダニー 古いものは捨てる、すぐだ。まだ全然食べられるというのに。嗅いでみてちょっと匂いがする、じゃあダメ。色が変わっている、これもダメ。ゴミ箱行きだ。焼けばまだ全然食べられるというのに。もともと全てに命があって、俺たちはそれを刈り取った、命の糧にするために。しかし、命を奪うだけ奪って捨てる。極めて非道徳的だ
メアリー 奥様のお話ですか。それは是非ご自宅で
ダニー 一般論だ。あくまで一般論だよ。肉、野菜、ミルク、流行りでない服、台拭き、全てそうだ。ついには神様までも捨てるようになるだろうよ。大量生産大量消費。とてもアメリカ的だ

短い沈黙。

メアリー なにか他に言いたいことがおありですか
ダニー メアリー
メアリー はい
ダニー 2週間前。あいつらから請求がきた

メアリー 請求？

ダニー お前が車を壊したと言って。とんでもない額だ

メアリー 支払ったんですか

ダニー まさか

メアリー でしたら結構です。無視なさってください

ダニー まさかお前がやったわけじゃないよな

メアリー どう思いますか？

ダニー …あんな不良連中との付き合いはやめるんだ

メアリー 私の自由ですので

ダニー 私を何回も脅迫しようとした

メアリー 無視すればいいんです。どうせ本当にあなたから金を受け取れるだなんて思ってない。度胸がないんです。害はありません

ダニー お前を金ヅルとしか思ってないような連中だぞ

メアリー そうかもしれませんね

ダニー 付き合いをやめる

メアリー ニューヨークで唯一できた友達です

ダニーは怒って椅子を蹴り上げる。メアリーは黙って椅子をなおす。ダニーはメアリーを掴む。短い沈黙。

ダニー メアリー。家に帰るんだ

メアリー 家なら、ございます。ダウントウンの真ん中に

ダニー そうじゃない。アトランタに俺と帰るんだ

メアリー とても狭いけれど、埃っぽくて、いつもうるさいけど

ダニー お前はそんなところにいちゃだめだ

メアリー 自由に満ちた家です

ダニー ……もう親父は死んだんだ

メアリー 存じ上げています

ダニー 意地を張る必要なんかない、そうだろう

沈黙。

メアリー (姿勢を正して) 旦那様。お気遣いありがとうございます。ですが、お暇をいただきたく存じます

ダニー は？

メアリー お暇をいただきたく存じます

ダニー なにを言ってるんだ

メアリー ですから

ダニー お前、ここをやめるっていうのか

メアリー はい

ダニー 次の仕事が決まっているのか？

メアリー いえ、まだです

ダニー じゃあなんでやめるんだ

メアリー 私には職業選択の自由があります

ダニー 働き口がないからと、ここに連れてきたのは私だぞ

メアリー はい。あなたには限りない恩があります、旦那様

ダニー 旦那様だなんて…… (打ちひしがれて) 言うんじゃない

メアリー (仕様がなく) ……ダニー

扉の向こうにマルセルが入ってきているが、態度を決めかねて入るべきか迷っている。

ダニー お前は俺の妹だ
メアリー そうね。血は消えないから、それはその通りね
ダニー どこへ行くつもりなんだ？
メアリー 西へ
ダニー …それでどこへ？ロスか？サンフランシスコ？
メアリー もっと西へ
ダニー ハワイ？
メアリー もっともっと西へ
ダニー （嘲るように）開拓者にでもなったつもりか
メアリー 日本へ
ダニー は？お前、何言ってるんだ
メアリー シアトルから船が出てる。1週間もあれば着く
ダニー そういうことじゃない。そんな野蛮人の国に行ったら何があるといふんだ
メアリー 私たちの大いなる辺境は西にあるの。アメリカのフロンティアは西海岸で消滅してしまったけれど、もっともっと西、太平洋を渡った先には私だけのフロンティアがある
ダニー なんでそんな場所に行く必要があるんだ
メアリー 古い街にも、新しい街にも居場所がなかった
ダニー そこがダメだったらどうするんだ
メアリー もっと西へ
ダニー そこもダメだったら
メアリー もっともっと西へ
ダニー 理想の場所なんかないんだ
メアリー 理想を追って何が悪いの
ダニー ……どうしてそんなに俺を苦しめるんだ
メアリー 言ったでしょう。こうなるって
ダニー どうしてここを出て行こうとするんだ
メアリー あなたを苦しめてしまうのが辛いからよ
ダニー 家族は一緒にいるべきだ
メアリー そうね。そう心から思えたら、幸せだったと思う
ダニー どこへも行くな
メアリー だからここにはいられないの

メアリーが去る。入れ違いにマルセルが入ってくる。沈黙。ダニーが重い空気に耐えかねて何か話そうとした瞬間、マルセルが口を開く。

マルセル すまなかった
ダニー （言葉を探している）……
マルセル 許してくれるか

間。

ダニー ……いや、こちらこそ。こっちこそだ。……あんな方法を使うべきじゃなかった。レノを貶めて……
マルセル それはその通りだ
ダニー 恥ずかしいことをした
マルセル それはこちらもだ。私は議論で美に迫れると思ったことは一度もない／だが、美は価値観を破壊するけれど、他人を傷つけるために存在してるわけじゃない。違いがわかるか？
ダニー ああ
マルセル すまなかった

ダニー だからもういいよ
マルセル 違うよ
ダニー は？
マルセル 聞いていいか。……もし、『噴水』の展示を許可したら、君はどうなる？
ダニー 別にどうも
マルセル ダニー
ダニー ……ここにはいられないだろう
マルセル それでやっていけるのか、君は
ダニー 私には君のような才能はない。面倒を見てくれるパトロンも
マルセル それは

賑やかに汗だくのデイヴィッド、ラリー、ロイ、ジョージア、キャサリン、フィル、レノが入ってくる。

デイヴィッド いや、最高だ
キャサリン 最高
ロイ あんたのファンの楽団の連中は最高だよ
ジョージア みんなも、とびっきりクールだったわ
ダニー どこ行ってたんだよ
ロイ ああ、ダニー悪いな
フィル ちょっとそこでね
デイヴィッド ジョージアのファンとダンス・パーティーをね
ダニー はあ？どこで
ロイ すぐ表で。まあ、気にするな。ちょっとした息抜きだよ
フィル 喉が乾きましたわ
ジョージア 飲み物のお代わりが欲しいわね
ロイ グラスすらないじゃないか。おい、メアリー！
ジョージア なにあの召使気が利かないわね。ダニー、もっといい子紹介するわよ
ダニー 悪いな、主人の私が行き届かなくて
ジョージア あ、そうじゃないのよ、そう聞こえたらごめん

キャサリン おかえりなさい
マルセル 少し風に当たってきました
キャサリン いいお天気ですからね
マルセル ええ
キャサリン マルセル、あなたは『噴水』をどう思いますか？
マルセル (少し驚いて、しかし微笑んで) ……あなたは公正な人だ
キャサリン え？

デイヴィッド みんな席についてくれ

ルーズが入ってくる。全員が席に着く。

デイヴィッド さて、議論を再開しよう
ダニー (挙手して) その前に。(立ち上がり) …先ほどの私のレノックス・サンダースンへの発言を謝罪して撤回したい。もし、みんなの希望があれば私は退席する。申し訳なかった(座る)
デイヴィッド レノ
マルセル …私もだ。先ほど議論の途中に退席してしまったことをお詫びする
デイヴィッド ……わかりました。あなた方のことを許さない者はこの場にはいないでしょう。少なくとも、二人がこの場にいることを妨げる者はいません。しかし、私はまた皆さんにお聞きしたいことがある。このまま議論

を続けることは必要でしょうか？…いや、意見は無しで採決だけを取りましょう。ここに価値を置いてない方がいるのであればこれ以上話し合いを続ける意味がない。方法の一つとして、私たちがこの審議を拒否し、理事長に展示の可否を委ねるという手もあります

マルセル それは

デイヴィッド 議長として異論は認めません。こちらは挙手でお願いします。この会議を続けることに賛成の方

ダニー以外のすべての人間の手が挙がる。

デイヴィッド 1、2、3、4、5、6、（ルイーズの手が挙がっているのを見て）あの、

ルイーズ ああ、すみません。つい！

デイヴィッド 6、7、8。全会一致となりましたので、議論は続行されます

レノ ちょっといいか。……俺は、つい先ほどまで誤解していた。この議論は、『噴水』というある作品に難癖をつけたものであると。しかし、今は違う。この議論はニューヨークの、俺たちの未来につながるものだ。俺も含めた芸術家たちの未来をかけた議論と、自負している。以上だ

短い沈黙。

【6】

デイヴィッド それでは現段階での意見を確認しましょう。挙手をお願いいたします。リチャード・マット氏の『噴水』の展示に賛成の方

レノ、ジョージア、ラリーの手が挙がる。

デイヴィッド 3票。それでは反対の方

デイヴィッド、フィル、ロイが積極的に、ダニーが消極的に手を挙げる。

デイヴィッド 4票。あと1票で、『噴水』の展示は拒否されます。それでは議論を再開しましょう

キャサリン （ロイに）あんたいいの？

ロイ ああ、もともと気に食わなかった。それに、俺には今急ぐ理由がなくなったんだ。俺には…（泣く）

ジョージア ああ、ごめんって

フィル ラリー、あなたが賛成に回った理由を教えてください

ラリー 非常に単純だ。私はもともと『噴水』に限らず、あらゆる作品の展示に賛成だ。しかし、私は出展をする当事者、つまり芸術家ではない。諸氏らの意見に耳をかたむけるべきだと思った。そして、自分の本来の主張を覆すだけの意見に出会わなかった。だから今、意見を表明した

フィル なるほど、納得しました

ラリー いまひとつある。君を含めてあらゆる芸術家の保護のためだ。例えば君が極めて反社会的な作品を作りたいとする。私は全力で君の権利を守りたい。何者であるうとも、芸術を制限するべきではない。…逆に私からも聞こう。『噴水』の展示を許さない、その理由はなんだね

フィル 不道德です

ラリー なるほど。それも理解できる。しかし、不道德か否かを決めるのは個人の倫理観による

フィル しかし、公共性の高い場でやる以上、一定の配慮は必要のはずですわ

ラリー 美術館というがちがちに世間から隔離された場所で行われる、「新たな価値観のための」と銘打たれた展覧会だ。これ以上なくきちんとした区別がされている

沈黙。

デイヴィッド 私が思うに、これは「創作」をしていない、つまり芸術でないと思います

ラリー 創作。いい問題提起だと思う。「創作」。これを論点にしたらどうだろうか

キャサリン 創作

ラリー そうだ

ロイ まず第一に、芸術に創作は必要か？

ジョージア 必要でしょう。創作のない芸術なんてありえない

ロイ 芸術に創作が必要でないと思う方？

誰も手が上がらない。

ロイ よろしい。芸術に創作が必要ということは確認された。では、「創作」とは何か？それが問題だ

フィル 先ほど、レノから創作はゼロから新しい価値観を作り出すものだという提言がありました

レノ 大半がそうだ、ということだ。発言の引用は慎重にしてもらいたい

ロイ この作品はゼロから作ったものじゃない。便器を作ったのはシカゴの工場で働くどっかのスミス氏だ。それからマットが価値を付け加えたと考えるのが妥当だろう。もちろん、そんなものがあればだが。この観点から言えば、リチャード・マットは創作してないとなる

ラリー つまり争点は、「創作」とはゼロから美を生む場合のみを指すのか、それとも既存のものに美を付与する場合を含むのか、ということだな

ロイ 先ほどはキャサリンの知識を合意としたが、改めて議論するべきだ

デイヴィッド (小声で) お前変わりすぎて怖いよ

ロイ 俺の心は今熱く燃えている

デイヴィッド さっきまでのやる気のなさはどこ行ったの

ロイ うるさい。俺には前しか見えない。…アッ！(自分の腹を抱える)

ジョージア ど、どうしたの

ロイ お、お腹が、お腹が猛烈に痛い…

レノ (呆れて) 画家がある港町にいる。その風景が大変気に入って、印象派風の絵を描いた。それは創作か？

デイヴィッド そうだな。そうやって差し支えないだろう

レノ なぜだ？

デイヴィッド その画角、色の使い方、構図、全てに創作の余地がある

レノ 一方、便器にサインをしたものは創作ではない

フィル 創造した価値は極めて低いでしょう

デイヴィッド ゼロといっても過言ではない

レノ なぜ？

フィル なぜ？普通に考えればそうでしょう。これは創作ではない

レノ ストーンマン夫人。「普通に」などという曖昧な発言は慎んでもらいましょう。我々は、芸術の明確な定義を決めているのだ

デイヴィッド これは、ただの便器を買ってきてサインしたものだ。創作はほとんど行われていない

レノ 例えば、もしこの便器が、リチャード・マットによってゼロから、そうだな、例えば焼き物などで創られたものであったら、あなたは創作と認めますか

デイヴィッド 少なくとも、買って来たものよりは創作行為に近いと言えるでしょう

フィル (デイヴィッドに) そんな！

デイヴィッド 認めるべきものは認めないといけません

レノ なるほど、ありがとうございます。非常に興味深い発言だ。作品の要素の一部分でも芸術家によって作られていなければ、創作と認めにくい。先ほどの話に戻りましょう。風景画の話です。風景は画家が作ったものではありませんね

フィル 当たり前でしょう

レノ 風景画の重要な要素である風景は画家が作ったものではありません。どうして風景画が創作と認められますか

フィル あなたはなにをいっているのかわかっているんですか

レノ (道化ぶって) 私は何を言っていますか

フィル あなたは、今までのありとあらゆる芸術を否定しようとしている

レノ その通りです。私は、ありとあらゆる芸術を否定している。……あなたたちの理屈を使ってね。「創作に少しでも他の手が加わったら創作ではない」。残念ながら私はそうは思わない。ですので、過去のありとあらゆる風景画を芸術を認めよと要求します。そして、この『噴水』も芸術と認めよと要求します

フィル あなたの主張は根底からおかしいと思います

レノ 伺いましょう

フィル 他の手が加わった、とおっしゃいましたが、『噴水』の場合、人の手が加わっておりますわ。一方風景の場合、神によって創られています

マルセル 神

フィル はい。その違いに着目してください

レノ 風景は神の手によって創られる？

フィル その通りです

レノ そうしたら、風景画からあらゆる建物は消え失せるでしょう！あれは人の手によるものですからな

フィル そういうことではありません。『噴水』は全てが人工物です。風景は、それがどんなものであっても空や水があります。それは人の手によって作れない

レノ じゃあ、この『噴水』に水を流しましょう。人の手では作れない本物の水を。これで芸術と認めていただけましたか

フィル 屁理屈です

レノ あなたの方が屁理屈ではありませんか。その一部分、あるいは全部が人の手でできていたら創作と認めないなど、全く成り立たない話なのです

デイヴィッド …私はもっと根源的な話をしたい。みんなは今頭で考えているんだ

レノ ああ、頭で考えている

デイヴィッド 先日、サラ・ベルナールが病気で足を切断するというニュースを見ましたか？

ロイ サラ・ベルナール？

キャサリン 舞台女優です。フランス人の

レノ 名前くらいは。それがなにか？

デイヴィッド P・T・バーナムという興行師が、彼女の切断した足を1万ドルで買うらしいです

レノ そりゃ気前のいい話だ。一体女優の足なんか買ってどうするのかね

デイヴィッド 展示するそうですよ

短い間。

デイヴィッド 私はみなさんに聞きたいと思います。人の切断した足と、便器が並んだ美術館に本当に行きたいですか？それは美ですか？違うな。もっときちんとした問いにしましょう。あなたたちは、目で見たもの以上に頭で考えたことを重視しているように思います。いや、重視しすぎているように思います。目の前のものを見て、なぜそれを美しいかと考えることは我々美術家に非常に重要です／しかし、そのせいで目で見ているものを否定していませんか。頭で考える美のために、今ここにある美を無視していませんか？

キャサリン （ここに至りマルセルが『噴水』の作者だと気づき、しかしあいまいに）…マルセル、どう思いますか？

マルセル （キャサリンの意図に気づき、沈黙）……

ジョージア あなた、そもそも芸術は美しいと思ってない？

デイヴィッド そうですが、何か？

ジョージア やっぱり。言っていることはわかるけれど、あなたの例えと結論と今してる話がずれてると思う

デイヴィッド ずれているとは？

ジョージア あなたが今したのは「美しくないものを芸術としていいか？」って話でしょう。それで、結論は「見た美以上に考えた美を大事にしてる」で、今ここでする話は「なにが創作か」でしょう。少しずつずれていると思わない？

デイヴィッド 私の言葉が足りませんか

ジョージア でも、その少しずつずれてる言葉が生まれる理由はわかるような気がする。あなたは「美しくないものは芸術でない」って思ってる。だからずれてくるの
デイヴィッド なるほど。そう、確かにそうです
ジョージア 「芸術は美しくないものを含む」と思う。例えばそれが戦争の記録だとしても、人になにか大きな感情をもたらすものなら、それは芸術だと思うわ
デイヴィッド それが戦争の死であるなら大きな感情をもたらすでしょう。しかし、病気で切断した足と便器です。……静かでいやな、気分です。それは大きな感情ですか？
ジョージア それがマルセルの言う、沈黙じゃないかって思うの
デイヴィッド うーん、それもなにか…
ジョージア 少なくとも、「芸術」は「美しくないものも含む」と思うわ。だってそうでしょ、「美しくないもの」なんて美術館に溢れてるもの
デイヴィッド （思わず苦笑いして）わかりました。「芸術」が「美しくないものも含む」のかは保留にしましょう。しかし、
ラリー 話を一度戻そうか。こう考えるのはどうだ。朝、画家が起きてアトリエに入り、テレピン油で絵の具を溶き、絵筆を使ってキャンバスに赤い絵の具を乗せる。それは選択だ。無数にある選択肢の中で彼は赤い絵の具を乗せるということを選んだ。同じようにP・T・バーナムは切断した足を選択し、リチャード・マットも便器を作品として選択した
フィル それはおかしいです
ラリー どうして？
フィル 作品というのは見る側にも権限があるんです。見る側がその作品を補填する。作る側と見る側、二つでその作品の価値を創るからですわ。その総和が素晴らしいものがルーブルに飾られる。表彰されるわけですから。これは、あまりに見る側の機能が大きすぎます。ルノワールの絵を見てください。それが例えブロンクスの壁に飾ってあったとしても芸術作品だと理解できます。しかし、これを道端においてください。これが本当に芸術だと誰が断言できますか？つまり、これは美術館に置かれたから始めて美としてみなされる、作り物、そう先物為替のような虚実の美なのです。美術館がないと存在し得ない美は果たして本当に美ですか？

沈黙。

レノ （笑って）あなたは今これを作品として扱いましたね。それは『噴水』を作品つまり、創作と認めたということによろしいですね。…デイヴィッド、採決を要求します。これが創作であると認められた今、『噴水』の展示を許可するのか
フィル 待ってください、そういう意味じゃありません
ロイ （立ち上がり）すみません！便所！
ジョージア ちょっとあんた待ちなさいよ
ロイ すまん、すぐ戻る！

ロイが去る。

レノ デイヴィッド
デイヴィッド しかし、それは、
レノ 採決を求めます
ラリー いいじゃないか。今この場は非常に有意義な物になっている。もう少し、聞いていたい
レノ ここはあなたのサロンではありません
ラリー 重々承知の上だ。そして、レノ。君の意見も片手落ちだな。この作品が創作だということは今ここで認められた。しかし、「美を創作した」とは認められていない。だってそうだろう？エジソンの発明した白熱電球は芸術か？グラハム・ベルの発明した電話機は芸術か？おそらく違うだろう。しかし、彼らは「創作」をしている。ではなぜ彼らの創作物は芸術とは扱われないのか
レノ あなた、賛成派じゃないんですか
ラリー 私はありとあらゆる芸術家の味方だよ

ジョージア 美が欠けているから。電話機も電球も美じゃないから

フィル そうです

レノ ラリー、あなたまさか

ラリー この作品が芸術、つまり「美を創作した」と認められるためには美の定義が必要となった

デイヴィッド 勘弁して下さいよ。有史以来ずっと問われてきたことにここで結論を出せと。無理に決まっています

キャサリン 問う価値はあると思います

ジョージア それに、さっきの「芸術は美しくないものも含むのか」って話にもつながりそうだし

ルイーズ 考えましょう、みんなで。（全員の耳目が集まっているのを見つめ）え、と、（小声で）「美とはなにか？」

ラジオからダニーのモノローグが流れてくる。

ダニー（ラジオ） どこか他人事で聞いている。物事への距離について考えている。他人事のように。おそらく1時間とたたないうちに、自分は職を失うに足る十分な理由を得るだろう。それは、メアリーとの生活が終わることを意味する。たとえ彼女が出て行かなかったとしても。どうすれば彼女を引き留めることができるだろうか。そればかり考えている。彼女を引き留めるために必要な議論には……私はどういうことか興味を持たずにいる

【7】

シーン戻って。

レノ 美とは何か？

キャサリン 古代において美は正しさと同義でした。「美しい人」とは市民としての要素を満たした「立派な人」というような意味でした。この場合の「美しい」は容姿的なものではなく生まれの良さや社会的地位、または能力を指しています。建築学的に強度がある神殿は美しいとされました

ラリー いまも「機能美」という時の美はそれに近いな

デイヴィッド 道具がより機能的であった時、我々は美しいと感じます

キャサリン この時代においては、美は哲学者が知るべき最高の対象でした。つまり、善や真実と本質的にはわかりません。むしろ、美は真実であるとか、善の従属的なものとして考えられ、逆に真実を表現するために美を用います。それが宗教画の始まりです

フィル 王様や貴族の権力を誇示するための装飾や建築も、美を利用しておりますわ

キャサリン 時代が進んでいきますと、それに道徳、あるいは徳という意味が加わってきます。例えば「彼の一生懸命な生き方は美しい」とか「最後まで正義を貫いた人生は美である」といったように

ジョージア こうしてみると、どれも納得できるし、いま自分たちも使ってるけど、美って随分いろんなことを表す言葉なのね

キャサリン はい、そう思います

ラリー 近代の美を語るならカントは外せない

ジョージア かと？

キャサリン エマニュエル・カントです

ジョージア えまにゅえるかと？

キャサリン カントは18世紀ドイツの哲学者です。彼は美というものが純粹で無謬な存在としてあるのか、それとも私たちが見てそれを認識するから美と感ずるのかという心理学的な見地から美を検討しました。しかし、その全てを語る必要はなく、この言葉を引用すれば充分かと存じます。美とは「構想力と知性の自由な戯れ」である

ジョージア 「自由な戯れ」？すっごい私好みなんだけれど

キャサリン 美を認識する方法がまるで遊ぶように自由に行われるようなものが真実の美だ、という考え方です

ジョージア ってことは、自由に想像できるからこれは美じゃない！

キャサリン いいえ。「自由な戯れ」は理想的で究極の調和を目指しています

レノ 理想的

キャサリン そうです。しかし神という究極の存在の元で美しさを求めるという意味では、道徳と大差ありません。つまり結局は、近代までの美とは道徳そのものです

レノ 道徳

デイヴィッド 我々は哲学をしたくないぞ

キャサリン その通りです。私がお話しできるのはここまでです。私はただ、「昔のこと」を知っているにすぎません。未来の美は皆様でお話してください

レノ 私は問おう。「道徳」とは二次元的な観点である。つまり、1本の線の端に「道徳」と書いてあり、もう一方の端に「不道徳」と書いてある。その間を行き来しているのだ。それ自体は否定はしない。しかし、現代の美に合致するのか。私が問いたいのはそこだ

フィル 合致するか、ではありません。美が道徳から離れていることこそが問題なのです

レノ ストーンマン夫人、あなたの道徳観について確かに拝聴致しました。しかし、あなたのような意見を検討もせず受け入れることこそ芸術を衰退させることに他ならない

フィル なんですって

デイヴィッド 言い過ぎではないのかね

レノ いいえ。かつては祈りの時代でした。誰もが神と王の前に敬虔に忠実に生き、死んだ。しかし神は地上に引き摺り下ろされ、王はギロチン台で首を切り落とされた

フィル あなたの発言は大変不敬です

レノ 言い方を変えましょう。私たちは多様な選択ができるようになった。ひとつの価値観で統一されることはなく、同時にその立場によって道徳が全く異なってくる。私は提言をしたい。そのような状態に至ってもまだ道徳イコール美と信じるのか

デイヴィッド 信じる人は依然多い。君も、私もだ

レノ 我々は過ぎ去った時代を懐古しているに過ぎないだよ

フィル しかし神によって救われている人もいます

レノ 否定しない。だが、そのために新しい価値観を捨てるなど馬鹿馬鹿しい

デイヴィッド じゃあ君は美をなんと定義する

レノ 難しい。非常に…！難しい

フィル ほら、答えられないじゃありませんか

レノ (『噴水』の写真を見ながら) 俺は…俺はこれを見て、なにかが変わったような気がした。心に風穴が空いた。こんなにも空虚に満ちていながら、その風穴から俺個人の美意識を吹き飛ばしたんだ

ジョージア あなたはこの美をなんと呼ぶの

レノ 俺は…これを理想と呼びたい。荒削りで、過去を否定しながら傷つけながら、完全なものなどないと信じながらそれでも新しいものを求めざるを得ないこれを、理想と呼ぼう。おれはこの美を理想と呼ぶ

フィル その理想は過去の美を否定しています。誰かを傷つける

レノ しかし、過去の美を否定しながらも理想は、決して美しくないものも含むだろう。なにかを捨て、新しいものを得ていく。それこそまさしく理想じゃないか

ダニー 理想…

ジョージア 理想！なんて素敵な言葉なの。どんどん捨てちゃえばいい、性別も身分も国境も宗教も、全部ゴミ箱行き！私は人になるわ、なにものでもない美しさを求めるただの人間

フィル それで本当に人は幸せになれるか？

ジョージア 古臭い鎖につながれているより何倍もマシよ

フィル 本当にそれは鎖ですか、私たちを守ってくれる家ではなく

ジョージア それは歴史が証明するでしょう

ラリー 理想か。悪くはない

フィル 理想のために過去を否定するとしても、本当にそう思えますか？

レノ 理想がほんの少しの可能性でも新しい価値を作れるのだとしたら、喜んで犠牲になるべきだ

フィル あなたはなんで過去をそんなに切り捨てられるんですか

レノ 過去なんて全部壊してしまえ

フィル それはあまりにも乱暴です

レノ さて、結論は出た。『噴水』は創作である。美とは理想である。これで採決をとってもらおうか

フィル 待ってください

キャサリン マルセル、どう思いますか？

マルセル 沈黙

フィル まだ終わっていません

デイヴィッド …採決を

フィル 待ってください

デイヴィッド 静粛に

レノ 議論は終りだ

フィル まだ終わっておりません

デイヴィッド 皆様、意見の表明を

レノ 賛成

ジョージア 賛成

フィル 反対

ラリー 賛成

マルセル 放棄

ダニー 反対

沈黙。

デイヴィッド ミセス・フライヤー？…意見の表明を。…キャサリン！

キャサリン 私は…、…私は……私は

マルセル みんな、聞いてくれ

短い沈黙。

デイヴィッド なんですか、マルセル

マルセル ダニーは、脅されている。……理事長に、この作品を出すなって強要されている。だから、この議論は先延ばしにしないか。保留でもいい。もしこのまま展示を強行してしまったらダニーは…

レノ 何を言ってるんだ

マルセル だからそうなんだ

ジョージア ダニー

ダニー 確かに俺は最初、『噴水』の展示を拒否しろと告げられたいや、命令されたと言ってもいい

ラリー 君はなにを言ってるのかわかっているのか。説明したまえ

ダニー でも今は違う。俺は本心から、こんなもの認められないって言ってるんだ。これは美じゃない。理想は美ではない。理想とはなんだ？そんなもの実在するか、少しの可能性のために他者を犠牲にするなんてことが許されるか

レノ だとしたら、お前の美を語ってみる

ダニー 俺には答えはない

レノ じゃあ黙ってる

ダニー いや、俺は沈黙しない。だから、代わりにお前が語れマルセル

レノ なんでマルセルが語る☆必要が

マルセル 私も美とは理想ではないと思う

レノ おい

ダニー だとしたらなんだ？美とはなんだ？……これを美だと、とお前が証明しろ

沈黙。

マルセル 私に答える義務はない
キャサリン 義務はないかもしれない。でも、答えられるはずですよ
ダニー お前は証明することができる。そうだよな？
ジョージア (確信して) えーっと、もしかして
マルセル ……聞きたいことにはなんでも答えてやるよ

【8】

ダニー これのどこに美があるか説明しろ
マルセル 沈黙
ジョージア そういうことじゃないでしょ
ルイーズ もう少し聞いてあげて
ダニー なるほど、ではいい。次

ダニーは目の前にあるもの、あるいはポケットから入っている小物を取り出し、テーブルの上に一つずつ放り投げていく。

ダニー (ペンを放り投げて) 友情、(別のペンを放り投げて) 愛情、(メモ帳を放り投げて) 信頼、(コインを放り投げて) ニューヨーク、(ハンカチを放り投げて) 社会、(ボタンを放り投げて) 嫉妬、(扇風機に触れて) 時代。……全て俺の作品だ
マルセル 君の作品だ
ダニー 否定してみる
マルセル 否定はできない
ダニー しかし、これは俺の作品じゃない。俺は今出鱈目を言った
マルセル なるほど
ダニー これは俺の作品じゃない。つまり創作物ではない
マルセル これは君の創作物じゃない。つまり芸術じゃない
ダニー 俺がこれを作品だと言った瞬間にこれは芸術となり、作品でないといった瞬間に芸術でなくなった。そんな曖昧なものを美と呼べるか？いや、美は確かにここにあると言えるのか？
マルセル 君はレディ・メイドのなんたるかを全く理解していない。君はここにあるものを作品だと言った。作品だと認めよう。作品でないと言った。作品でない認めよう。しかし、作品だと言い張った場合、わたしは確固たる判断を下すことができる。こんな作品はゴミ同然だ
ダニー お前は『噴水』を芸術と認め、これを芸術と認めない
マルセル そう取ってもらってかまわない
ダニー その違いを説明してみる
マルセル 沈黙
ダニー 認めない。今度は絶対に認めないぞ
マルセル レディ・メイドはいわば、選ぶ側が聖別、つまり「聖なるものを選ぶ」ようにしなくてはならない。つまり、例えば私が君のペンをレディ・メイドと選んだとしよう。それならば、同じメーカーの同じものであれば全く同じ価値がなくてはならない。私がこのペンをなくしたとして、また同じようにデパートで買い、同じように作品棚に並べて満足するだろう
ダニー オリジナルの否定
マルセル そうだ、オリジナルなんてものはない
ダニー 素晴らしい。ダダイズムはオリジナルまで壊した
マルセル 芸術家が唯一無二のものを作っているなんておごりは捨てるべきだ。しかし一方で、君のこのペンやコインにそれだけの価値を置いているか？それだけの意図を持って作品という扉を開いたのか？だからこれはゴミ同然だと言ったんだ

ダニー だがリチャード・マットがお前の考えの通りに、これを聖別したって保証はどこにある？もっと言えば、これから先、『噴水』を創りうる未来の芸術家たちがお前と同じ価値観を持って作品を創っていると誰にも保証はできない

マルセル 保証など出来ない

ダニー 未来の、お前の理念をコピーした、創造の才能も意欲もないやつが『噴水』の粗悪なコピーを創らないって保証してみる

マルセル だから保証など何一つできない

ダニー 反論しろマルセル

マルセル 反論などなに一つないんだ

ダニー もう負けを認めたのか

マルセル 君はまだ気づいてないのか。もう答えにたどり着いているというのに

ダニー 哲学ぶった言葉で煙に巻くのはもうたくさんだ。ちゃんと証明してみせる、ここに美はあると

マルセル もう終わってるんだ

ダニー なにが終わってるんというんだ

マルセル 君と私は、すでに別のものを美しいと思っている

間。

ダニー (ふと気づき、怯えながら) 違う、それは美じゃない

マルセル 君は気づいてしまった

ダニー 今は分かり合えなくても、理解できなくても、必ずいつかどこかで美しさを共有できるはずだ

マルセル 違う

ダニー 俺たちには同じものを見て美しいと思うことができるはずだ

メアリーが扉の裏に入ってくる。

マルセル 美とは可能性のことだ。…私たちが、全く違うものを美しいと思える可能性、違うものをよしとできる可能性。それが大きければ大きいほど美は開かれている。扉は開かれたままである

ダニー 俺たちが同じものを美しいと「思えない」可能性

マルセル そうだ。それすらも、俺が考える、最上の美だ

ダニー それは、そんなことは

メアリーは扉をノックする。

メアリー 旦那さま

ダニー 後にしろ

メアリー 失礼いたします。…お届け物が

ラリー 今は会議中だ。後にしなさい

メアリー それが、ロイ・キャンパネラ様が中身を見た途端にどうしてもこちらにお持ちするようにと

ラリー ……誰からだ

メアリー 理事長から

レノ 取りに行く

メアリー かしこまりました

レノとメアリーが去る。すぐにロイとレノが大きな荷物を抱えて入ってくる。荷物には布がかかっている。二人は大きな荷物を机の中央に置く。

キャサリン これは、もしかして

ロイ そのまさかだ

ロイが布を取る。置いてあるものはリチャード・マットのサインの入った便器。『噴水』である。
長き沈黙。やがて、

ジョージア （呆然と）……美しくない
ロイ （悟ったように）…美しくない
ルイーザ （マルセルに）…美しくない
レノ （笑って）…美しくない
フィル （神に祈るように）……美しくない

沈黙。

デイヴィッド それでは、話し合いを続けましょう

暗転。

【8】

溶明すると舞台上にはフィル。帽子をかぶったマルセルが扉を開けて入ってくる。
会釈をして、二人は押し黙る。

マルセル みなさんはもうお帰りですか
フィル はい
マルセル それでは、私も失礼
フィル これで満足ですか？
マルセル どういう意味でしょうか？
フィル 結論は出ませんでした
マルセル ええ。『噴水』の展示は理事長の判断となるでしょう
フィル リチャード・マットとはあなたのことですね。マルセル・カルネ
マルセル ……だとしたらどうしますか
フィル どうしてこんなことを
マルセル それは、来週発売の『ブラインド・マン』という雑誌を見ていただければわかります
フィル 全てあなたの思い通りに進んだわけですね
マルセル 推測はいくらでもしてください
フィル あなたは『噴水』が出展を拒否、あるいは無視されるであろうことを知っていた。そして、その過程までも作品にしようとした
マルセル ……これは、驚きました
フィル 驚いた？
マルセル あなたはとてとても賢明な女性です。ストーンマン夫人
フィル あなたが最初に思ったよりも、少しは賢明でありたいと思いますわ
マルセル その言葉はそのままお返しします
フィル もう一度聞きます。どうしてこんなことを？作品なら、あなたの名前を出せばいいはずですよ。そうしたらきちんとした審査が行われたでしょう
マルセル 多少は名の売れた芸術家が出したということ？審査は通ったかもしれません。しかしそれは、作品の評価ではない
フィル でも
マルセル セザンヌの絵がそんなに素晴らしいですか？彼の創るもの全てが？それは大変素晴らしい数点、いや4・5点はあるでしょう。その他は全て駄作です。しかし、彼が描いたものは全て美術館で大変な価値を持つと崇拜されている。全くバカバカしいことです

フィル それがあなた達ダダイストの主張する破壊ですか

マルセル いかにも

フィル 美を破壊して、そこにある思いを破壊して、何が残りますか

マルセル 思いを破壊ですって？

フィル だってそうでしょう？今私たちは美について話し合いました。ひどく未熟で、なにか重要なことを見落としていて、きっと不完全な議論だったでしょう。でも、私にとってこれは、ここには紛れもなく……

マルセル あるいはそうかもしれません

フィル それまでもあなたは破壊する

マルセル はい。ダダイズムの本質は破壊にあります

マルセル ええ、私たちはそうするでしょう

フィル 最後はあなた自身さえも破壊するでしょう

マルセル それすら本望です

フィル それで、その先になにがありますか。否定して、壊して、なにが生まれますか

マルセル 解放されます。その後のことは別の方が考えることです。我々はダダイストですが、ダダイズムのためだけに生きているわけではない

フィル 解放されたあと、あなたはどうなるんですか

マルセル そんなことあなたには関係ないでしょう

フィル 遠くない未来、あなたは一人になりますよ

マルセル そうだとして、だからなんだっていうんですか？……それでは失礼します

フィル マルセル。あなた、神を信じていますか？

間。

マルセル 神を信じていますか？ですって……神を信じているか？（激昂して）馬鹿げている。全く馬鹿げています。私にそんなことは聞かないでいただきたい。神などというものはトートロジーですよ、神がいるから信じる、信じるから神がいる。そんな反復のなかになにも生まれない、ただあるのは愚か者の安寧です。あなたはここで何を見ていたんですか。ここにあったものは紛れもなく私たちが作ったものだ。神なんてあいまいなものが介在する余地など一切なかった。神などというものは、人間の都合がいい発明ですよ。二度と、口にしないでいただきたい

フィル ……あなたは、私よりもずっと、美に近い位置にいます。だけど、あなたが真の美に迫れることはないでしょう

マルセル あなた程度の芸術家になにがわかるっているんですか

フィル わかりません。でも知っているような、気がしているんです

マルセル 見ていなさい。これから、もっと破壊が起こるでしょう。戦争は始まりにすぎない。もっとたくさんの価値観が壊れ、隣人を隣人として愛せなくなる時が来るでしょう。その時に、美とはいかなるものとなるのか。私は見ていたいと思います。ユーモアをもってね

フィル ……あなたのおっしゃることは正しいと思います。これから古いものはどんどん壊れていくでしょう、新しいものがやってきて、それすらも古いものへなっていくでしょう

マルセル ええ

フィル ですが、きつといつか。…故郷や、国や、家族や、目で見たものや、神に。救われる日がきますわ。それまでどうか、

マルセル お元気で

フィル どうぞ、お元気で

フィルが去る。マルセルは『噴水』を一瞥し、去る。

【終幕】

キャサリンが入ってくる。

キャサリン 結果から申し上げます。『噴水』は1921年独立芸術家協会主催の展覧会に…展示されました。……パーテーションに囲まれた誰からも見えない空間に。不服として、マルセル・カルネとローレンス・バーグは直ちに理事を辞職。それとともに、彼らの理解者であったマン・レイ、フランシス・ピカビア、ワシリー・カンディンスキーも独立芸術家協会を脱退し、ニューヨークの美術はひとつの時代を終えます。…私たちは結局、この議論でなにを得たのでしょうか。リチャード・マッティエ、マルセル・カルネの「自由な戯れ」はなにを成し得たのでしょうか。「理解できないことがわかった」など、人間同士のやりとりとしてはあまりに不毛です。しかし、これは美なのです。情や理に支配されない、可能性の平野だとしたら、やはりそれは意味のあることなのかもしれません。可能性……私が今一度だけ、時間に手を加えることをお許しください。1922年。しかし、人間なら

旅支度のメアリーが入ってくる。メアリーは帽子を取り、一度振り返ると再び歩き出す。

ダニーが入ってくる。それを感じ、メアリーは足を止める。

ダニーはメアリーを抱擁する。メアリーは抵抗はしない、ダニーを受け入れたようにも、その結果に絶望したようにも、見える可能性がある。

暗転。

〈終幕〉

*1 アルフレッド・スティーグリッツ・・・写真家。近代写真の父と呼ばれた。

*2 アーモリー・ショー・・・1913年に行われた大規模な展覧会。アーモリーの由来は兵器倉庫で開催されたため。本来は「国際現代美術展」が正式な名称。

*3 キュビズム・・・20世紀初頭にパブロ・ピカソとジョルジュ・ブラックによって創始された絵画のブーム。単一焦点による遠近法の放棄と形態上の極端な解体や抽象化を特徴とする。

*4 流れ去る者はやがてなつかしき・・・清水邦夫『楽屋』の副題「流れさるものはやがてなつかしき」より引用。「清水邦夫1」早川演劇文庫P113 早川書房

*5 階段を上る裸体・・・マルセル・カルネのモデルであるマルセル・デュシャンがアーモリー・ショーに出展した作品。スキヤングラスな題材、評論で大きな話題を呼んだ。

*6 ルーブル グラン・パレ ジュ・ド・ポーム・・・全てパリにある美術館。